



## 2 収支の状況

単位:千円

		25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(予算)
収入	県支出金	53,280	54,936	54,482
	使用料・手数料	0	0	0
	その他	1,770	2,506	3,903
	収入計 (a)	55,050	57,442	58,385
【別掲】 県歳入(使用料)		526	581	513
支出	事業費	5,874	5,726	5,343
	管理運営費	13,449	14,567	15,799
	人件費	35,727	37,149	37,243
	その他	0	0	0
	支出計 (b)	55,050	57,442	58,385

## 3 利用状況

	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)
①年間利用者数	44,945 人 障害者スポーツへのきっかけづくりや、体力づくりをはじめとした各種教室等をはじめ、地域住民との交流の場としてのスポーツセンターの開放を進め、利用者数は年々伸びている。障害別では知的障害の利用者の伸びが大きい。	44,837 人 障害者スポーツへのきっかけづくりや、体力づくりをはじめとした各種教室等を継続して開催し、利用者数はほぼ横ばいの状況である。障害別では知的障害の利用者の伸びが大きく、施設別では研修室や体育館の利用者が増えている。	46,000人 障害者スポーツへのきっかけづくりや、体力づくりをはじめとした各種教室等をはじめ、地域住民との交流の場としてのスポーツセンターの開放を進めていく。個人や家族での利用者が安全で効率的な施設利用につながるよう、各種教室への参加を呼びかけていく。
②利用者意見等の反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者からの口頭での要望については、内容によっては即時に対応している。(対応済のものは、職員間で共有するため、日々の職員ミーティング時に口頭で引き継ぎを行うとともに、事務所内で文書により回覧している。)</li> <li>・即座に対応が困難な事例については、職員ミーティング時に様々な角度から検討した上で対応している。(緊急性の高いものについては、所長を中心に別途ケース会議を行い、対応を検討している。)</li> <li>・利用者の代表や学識経験者から構成された運営委員会を開催し、事業運営等に対する意見を伺った上で事業展開を図っている。</li> <li>・利用者の満足度を把握するため、随時、教室等におけるアンケート調査を実施し、その結果を基に事業内容の充実に向けている。</li> <li>・「意見箱」を設置し、頂いた意見に対する回答を掲示板に掲載している。</li> </ul>		
③その他特記事項	利用者数は年々増加傾向である。		

## 4 平成26年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下に示した危機管理体制や個人情報保護のための対策を行っており、適切な管理運営の確保を図っている。</li> <li>・一方で、大規模地震発生時を想定したマニュアルが未作成であるとともに、高知市が指定避難所としている障害者スポーツセンターの役割が明確化されていないことが課題である。</li> </ul> <p>【危機管理体制】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 緊急連絡網を整備し、緊急事態発生時にはマニュアルに沿って冷静な対応が図れるようにしている。</li> <li>2 月1回、施設や用具の安全点検を職員が実施し、施設チェックシートを作成している。</li> <li>3 スポーツ現場における救命救急を習慣的に身につけるため、年1回の救急講習会を職員が受講している。</li> <li>4 建物・設備の各種保守点検や定期点検を行い、その点検記録を職員ミーティングで共有している。</li> <li>5 ヒヤリハット報告や事故報告を作成し、原因分析と改善策を職員間で共有している。</li> <li>6 機械警備により異常があった場合には、警備会社から報告される体制が構築されている。</li> </ol> <p>【個人情報保護の状況】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「個人情報保護規則」を定め、それに基づき個人情報保護を実施している。</li> <li>2 個人情報は統計専用パソコンで別途管理している。(外部からのアクセスが出来ないようにしている。)</li> <li>3 各種相談記録や利用者登録台帳等、個人情報の台帳については鍵付書庫で管理している。</li> <li>4 職員のパソコンにはパスワードを設定し、外部の者が使用できない体制をとっている。</li> </ol>

<p>②利用者サービスの維持向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種教室等の企画段階において職員間で意見交換を行い、教室参加者に満足してもらえるよう内容の充実に努めている。</li> <li>・各種教室等の開催後は、改善策等を記載した事業記録を職員間で共有するとともに、抽出して実施したアンケートの結果を踏まえ、利用者のニーズに沿った内容に見直している。</li> <li>・日本障害者スポーツ協会の指導員養成研修や健康運動指導士の研修などに職員を派遣し、スポーツだけでなく障害の理解を深める研修を受け、今後の業務に生かしている。</li> <li>・障害者の利用に関しては60日前からの予約、その他の者に関しては30日前からの予約とし、障害者の優先利用を徹底することで、障害者の利用促進につながるよう取り組んでいる。また、特定の利用団体による施設占有化とならないように調整も行っている。</li> <li>・各種教室や大会等の申し込みについて、関係諸機関や利用登録者への案内発送と同時に、ホームページ上でも参加案内やスポーツセンターの情報を掲載するなど、利用者の利便性向上を目指して取り組んでいる。(URL:http://www.kochi-scf.com/)</li> <li>・年4回の障害者スポーツセンター便りや、管理棟ロビーへの行事予定表とポスターの掲示、利用カレンダーの配布など、各種行事を積極的に広報・PRしている。</li> </ul>
<p>③利用実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度における施設の利用者数は44,837人であり、前年度の44,945人と比べるとほぼ横ばいとなっている。(平成26年度の高知県障害者スポーツ大会においても、参加市町村数26市町村(前年度27市町村)、参加者数は1,300名(前年度1,357名)であり、前年度とほぼ同数となっている。)</li> <li>・近年は、障害のある方とその支援者(仲間)での利用や家族での利用が増加しており、これまでの団体中心の施設利用から、障害のある方とない方との交流の場としての利用へと徐々に変わってきている。</li> <li>・スポーツセンターを拠点として、各種スポーツ教室等を開催するとともに、総合型地域スポーツクラブとの連携により、スポーツを通じて地域の人々との交流を図ることで、障害のある人だけでなく地域住民をはじめとした障害のない人の利用にもつながっている。</li> <li>・スポーツセンターに来所できるのは県中央部に在住する方に限られる傾向があることから、関係機関との連携を図りながら、県東部や西部での障害者スポーツの普及を促進していく必要がある。</li> </ul>
<p>④収支の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内の温度や照度を測定し、定期的に統計をとるとともに、空調温度や設定温度を固定し、利用者には館内に掲示したうえで、クラブ代表者会議等で理解を促しながら、節約に取り組んでいる。</li> <li>・電気料についてはデマンド装置を設置し、1日の最大の電力使用が設定を超えないよう、節約に取り組んでいる。</li> <li>・裏紙を再利用するとともに、印刷枚数が多い時には、印刷単価の安い輪転機を使用することで経費削減に努めている。</li> <li>・業務に必要な経費は業者見積を比較して安い業者と契約し、経費削減に努めている。</li> <li>・スポーツ教室等の事業において、参加者から保険料程度の実費負担を徴収することに加え、団体利用者からも指導料を徴収するなど、事業の質や回数を落とさない範囲で経費を圧縮し、収支改善に努めている。</li> </ul>
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種教室等のアンケート結果を基に、障害者のニーズを把握し、内容の改善や充実に努めるなど、障害者スポーツの普及振興に努めてきたことは評価できる。</li> <li>・障害者スポーツのきっかけづくりをはじめ、身近な地域で障害者スポーツが楽しめるように総合型地域スポーツクラブとの連携を図るなど、障害者スポーツ活動への参加が促進されている。</li> <li>・障害者スポーツセンターの利用者数や、高知県障害者スポーツ大会の参加者数が年々増加傾向であることは評価できるが、県東部や西部の市町村の参加が少ないなど、県中央部と比べて障害者スポーツの普及が進んでいないのが現状である。</li> <li>・今後も、障害者スポーツセンターを拠点として、障害者のニーズに対応した教室等の事業展開や各種スポーツ大会の開催などに引き続き取り組むとともに、地域や教育、福祉関係機関等との連携を深めながら、障害者スポーツの普及振興を図ることが今まで以上に求められる。</li> </ul>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの